

安全は繰り返しが大切。基本的な活動を反復できる人材を育てる

株式会社シードは、プラスチック字消しなどの文具を製造するメーカーであり、世界で初めて修正テープを開発。近年はベトナムにも工場を設立し、効率的な生産体制を築いている。安全衛生教育は、自社で毎日行う安全活動を中心に展開をしている。

株式会社シード・大阪府

現在も続く安全活動は30年以上前から実施

株式会社シードは、プラスチック字消し、ゴム字消し、修正テープ、粘土、複合商品等を製造・販売する文具メーカーであり、世界で初めて修正テープを開発した企業である。同社の歴史は古く、創業は大正4年。安全活動の歴史も昭和25年から記されている。当初は組織的な活動ではなかったが、昭和34年頃からは組織的な活動を展開するようになった。

「昭和55年のある日、ゴム字消し製造の際に使用する打ち粉（タルク粉）の粉じん対策に悩まされていた安全衛生担当者が、別工程の担当者から使用済みのフィルムの再利用を提案され、粉じん対策の大幅な改良が行えたことを機に『全員参加の安全活動』の重要性に気づき、それまで職制で決まった日に実施していた安全パトロールを、全従業員が毎日交代で行う制度を発足させました。この活動は今も継続中で、この頃に現在のわが社の安全衛生活動の礎が築かれました」と、相談役は振り返る。

長く続く活動が形骸化しない工夫

現在、同社で行う主な安全衛生関係の取組みは、①全員参加の安全パトロール、②5S運動、③始業前ミーティング、④ヒヤリ・ハット報告制度、⑤改善活動、⑥安全推進員制度、⑦安全衛生委員による現場教育制度、⑧危険予知（KY）報告制度などである。前述したように、これらの取組みは長年継続されている活動なのだが、形骸化しないための工夫として段階的なレベルアップを図るなど、経年とともに進化している。

写真1 手作りのオリジナル安全標語

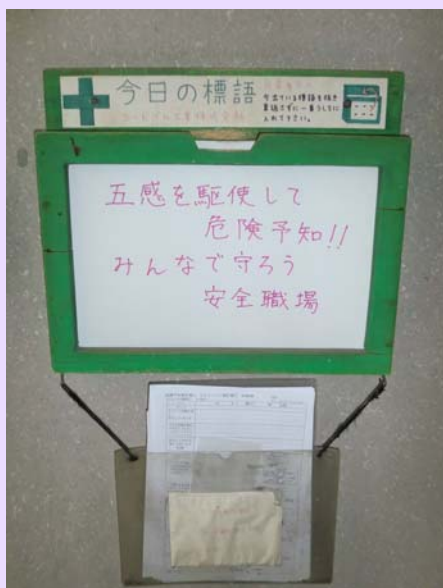


写真2 ㈱シードの『安全手帖』



例えば、①の『全員参加の安全パトロール』は、毎日の当番制で全員に回ってくる。開始当初は毎日2人1組で担当を務め、工場内の危険箇所を見つけることから始まった。パトロールのコツを掴んだ現在は1人で担当し、気づいた点を『危険予知報告書』（図1）に記載して提出する。この当番は『安全当番』と呼ばれ、パトロールの他にも毎日の安全標語を掲示する（写真1）。標語は、全員による手作りのオリジナル安全標語で、当番が毎日紙芝居のように差し替えている。

なお新入社員が安全当番になった際は部署長が同行し、マンツーマンで指導をしながらパトロールなどを行う。危険予知報告書には誰かが必ず反応を示すことで、個人の意識が高まり成長が早くなるとのこと。日頃のさかんな活動によってみんなで注意し合う雰囲気も確立されているため、若手社員が工場内を巡回する社長へアドバイスを求める場面も珍しくないという。

また、⑥の安全推進員制度とは、各部署で1ヵ月の交代制で安全推進員を務める制度である。これも社員全員が年に一度は担当する仕組みになっており、推進員になると、「毎日10分間5S」や月1回の「30分5S」、朝のミーティング時のリーダー役などを務める。5Sの重点項目の設定や活動内容を職場内に掲示するなどの役割を持つことで全員が『安全衛生を仕切る側の立場』になり、意識・レベルの底上げが図れるそうだ。

みんなが順番に安全教育の講師に

同社では、機械設備に関する安全教育も毎年行っている。講師は安全衛生委員の中でその機械作業の経験者が務めることになっているのだが、安全衛生委員は毎年メンバーが入れ替わるため、講師も毎年交代となる。「教える立場になると、必ずみんな改めて勉強するので、自然と全員の知識・意識が向上するほか、毎年メンバーが変わることで、同じ教育でも違った切り口で展開されるため、講師役の社員にも受講者にもよい刺激となっている。さらに講師役を務めることでプレゼン能力が上がり、自分の意思を相手に伝えるのが上手になります。人材育成と安全教育を兼ねることができ、効果も高いです」とのこと。

社員もパートタイマーも同じ安全教育で人材育成

同社で働くことになると、正社員もパートタイマーも関係なく、同じ内容の安全教育が何よりも先に実施される。その内容は、まず資料やビデオを交えて『安全』や『危険』に関する講義をしっかりと行い、その後に工場へ入場し、現場の案内を行う。

「最初の安全教育はわが社の安全衛生の方針を伝える一番最初の機会ですからとても重要です。さらにパートタイマーは近所の人が多いため、自転車通勤の講習と通勤時に使用する自転車の安全点検も毎年必ず実施しています。『パートでこんなにしっかりした教育を受けたのは初めて!』と必ず言われますね」と生産本部長は教えてくれた。

さらに、昭和55年に作成した同社オリジナルの『安全手帖』（写真2）は現在も改訂を重ねながら活用されている。44の安全心得と49の安全チェック項目で構成されており、ポケットサイズという利便性からパートタイマーも含めた全員が作業着のポケットに入れて携帯し、毎日の朝礼時に、1～2項目をみんなで読み上げ、その日の安全テーマとして互いに注意し合うようにしている。

今後の展開として、健康教育や健康管理に注力

同社の教育に関する特徴として、企業の規模が大きすぎないため、それぞれの担当者が変わらず、長い目で計画できる点が挙げられる。『危険』を理解し、見つける教育は日々の積み重ねが大切であることから、今後も全員の理解度や様子を見ながら健康教育や健康管理など、新しい取組みを増やしていくとのこと。

図1 危険予知報告書・ヒヤリハット報告書

危険予知報告書 ヒヤリハット報告書 所属部署 _____ 氏名 _____
 パトロール当番時 その他 No. K・H-25000

いつ	月 日 (曜日)	時	分頃																												
どこで																															
どういう状態を見て 何をしているとき																															
こんな危険が発生するかもしれない こんなことでヒヤッ!ハッ!とした																															
私はこうすれば良いと思います (私案)																															
リスクの評価 (安全管理者及び当番安全衛生委員が評価する)	<table border="1" style="font-size: small;"> <tr><th>重大性</th><th>点数</th></tr> <tr><td>死亡・重傷</td><td>10</td></tr> <tr><td>休業災害</td><td>6</td></tr> <tr><td>不休災害</td><td>3</td></tr> <tr><td>微傷災害</td><td>1</td></tr> </table>	重大性	点数	死亡・重傷	10	休業災害	6	不休災害	3	微傷災害	1	<table border="1" style="font-size: small;"> <tr><th>可能性</th><th>点数</th></tr> <tr><td>確実である</td><td>6</td></tr> <tr><td>可能性が高い</td><td>4</td></tr> <tr><td>可能性がある</td><td>2</td></tr> <tr><td>ほとんどない</td><td>1</td></tr> </table>	可能性	点数	確実である	6	可能性が高い	4	可能性がある	2	ほとんどない	1	<table border="1" style="font-size: small;"> <tr><th>頻度</th><th>点数</th></tr> <tr><td>1日に何度も</td><td>4</td></tr> <tr><td>1週間に数回</td><td>2</td></tr> <tr><td>ほとんどない</td><td>1</td></tr> </table>	頻度	点数	1日に何度も	4	1週間に数回	2	ほとんどない	1
	重大性	点数																													
	死亡・重傷	10																													
休業災害	6																														
不休災害	3																														
微傷災害	1																														
可能性	点数																														
確実である	6																														
可能性が高い	4																														
可能性がある	2																														
ほとんどない	1																														
頻度	点数																														
1日に何度も	4																														
1週間に数回	2																														
ほとんどない	1																														
<table border="1" style="font-size: small;"> <tr><th>リスクレベル</th><th>リスクポイント</th><th>判定結果</th><th>対処方法</th></tr> <tr><td>IV</td><td>16～20</td><td>至急の対策が必要</td><td>直ちに機械、作業方法の改善</td></tr> <tr><td>III</td><td>13～15</td><td>重大な問題がある</td><td>機械、作業方法の改善</td></tr> <tr><td>II</td><td>10～12</td><td>問題がある</td><td>本コピーを全部署がファイル管理し、部署内の安全ルールとする</td></tr> <tr><td>I</td><td>3～9</td><td>問題が多少ある</td><td>各部署での教育の実施</td></tr> </table>	リスクレベル	リスクポイント	判定結果	対処方法	IV	16～20	至急の対策が必要	直ちに機械、作業方法の改善	III	13～15	重大な問題がある	機械、作業方法の改善	II	10～12	問題がある	本コピーを全部署がファイル管理し、部署内の安全ルールとする	I	3～9	問題が多少ある	各部署での教育の実施											
リスクレベル	リスクポイント	判定結果	対処方法																												
IV	16～20	至急の対策が必要	直ちに機械、作業方法の改善																												
III	13～15	重大な問題がある	機械、作業方法の改善																												
II	10～12	問題がある	本コピーを全部署がファイル管理し、部署内の安全ルールとする																												
I	3～9	問題が多少ある	各部署での教育の実施																												
この報告を安全衛生委員の指示により教育した日、又は本報告書がリスクレベルⅠ及びⅡ（各部署での教育の実施）による教育をした日を右表に記入し捺印して下さい。																															
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>素材・押出</td> <td>Pプレス</td> <td>仕上</td> <td>研究開発</td> <td>技開・施設</td> <td></td> </tr> <tr> <td>物流</td> <td>事務所</td> <td>営業部</td> <td>商品企画</td> <td>現場事務所</td> <td>検査室</td> </tr> </table>				素材・押出	Pプレス	仕上	研究開発	技開・施設		物流	事務所	営業部	商品企画	現場事務所	検査室																
素材・押出	Pプレス	仕上	研究開発	技開・施設																											
物流	事務所	営業部	商品企画	現場事務所	検査室																										
当番安全衛生委員名 『安全衛生委員見解』 _____ 殿																															
当番安全衛生委員→安全管理者→当該部署→安全管理者⇒各部署回覧 →安全管理者→当番安全衛生委員と本危険予知報告書は評価して下さい→安全管理者																															
計画 (Plan) 部署名 _____ 氏名 _____	部署名 _____ 氏名 _____	実施 (Do)																													
改善 (Action) 部署名 _____ 氏名 _____		評価 (Check)																													
		本危険予知提出者 本危険予知の該当部署長 当番安全衛生委員																													

回覧一巡済み 分類 < >